

センター15 大御所時代～天保の改革

【近世 07】(2000年・本)江戸の都市政策。

- 株仲間を解散させ、物価引下げをはかった。
- 七分積金をもとに、江戸町会所によって都市貧民を救済する体制がつけられた。
- 消防制度を整備して、町火消を設置した。

答➡

【近世 07 解答】 [3→2→1] 3. 町火消は享保の改革(8代将軍徳川吉宗)で整備された。2. 七分積金は寛政の改革(11代将軍徳川家斉・老中松平定信)の政策。1. 株仲間解散は天保の改革(12代将軍徳川家慶・老中水野忠邦)。

●幕府の政治

大御所時代	【徳川家斉】 11代将軍 1837より大御所	放漫財政 文政金銀(悪貨)の铸造 ➡物価は上昇するが幕府財政は潤い、大奥は華美に 【関東取締出役】設置 1805➡無宿人や博徒の横行に対応 寄場組合 1827➡村々で共同して治安維持を実施
		江戸地回り経済圏の発達 関東周辺でも生産力が拡大➡江戸直送ルートの成長 桐生・足利(絹織物)など➡【マニファクチュア】 【国訴】の発生➡問屋の流通独占に反発、合法的訴願闘争 【天保の飢饉】の発生 ➡甲斐国郡内一揆・三河加茂一揆➡幕領で大規模な一揆 1837※【大塩平八郎の乱】➡大坂奉行所与力が貧民救済を叫んで大坂で蜂起 国学者【生田万】が呼応して越後柏崎で蜂起 徳川斉昭の「戊戌封事」…「内憂外患」への対応を意見
天保の改革	【徳川家慶】 12代将軍 老中 【水野忠邦】	風俗統制…【為永春水】(人情本)・【柳亭種彦】(合巻)の弾圧 1834【株仲間解散】➡物価引下げを目指す 1843【人返しの法】➡強制帰村、江戸への出稼ぎ禁止 1843【上知令】➡江戸・大坂周辺の直轄化めざす ➡大名・旗本などの反発を受け、忠邦失脚

●社会の変容と庶民の抵抗

農民の階層分化 ■豪農層…田畑を集め地主化、農村で流通・金融の中心 ■貧農層…小作人化、年季奉公、日用稼ぎに従事 三大飢饉 【享保の飢饉】➡西日本でいなごやうんかの大量発生 【天明の飢饉】➡「浅間山の噴火」で被害が拡大 【天保の飢饉】➡冷害をおもな原因として東北地方で数年間続く
--

百姓一揆	領主に対して村をあげ、要求をかかげて直接行動 17世紀:【代表越訴型一揆】➡下総の【佐倉惣五郎】など 18世紀:【惣百姓一揆】 19世紀:【世直し一揆】
【村方騒動】	村民が村役人の不正を追求
【打ちこわし】	飢饉の際、おもに都市で貧民が米商人などを襲撃 享保の打ちこわし、天明の打ちこわし
【国訴】	株仲間の流通独占に在郷商人・百姓が反発、合法的闘争

▽入試の極意 江戸時代中期の藩政改革

農村復興、専売制強化、藩校設立(人材登用)

熊本藩・【細川重賢】➡藩校【時習館】

米沢藩・【上杉治憲】➡藩校【興讓館】

秋田藩・【佐竹義和】➡藩校【明德館】

▽入試の極意 江戸後期の藩政改革

藩主	藩名	
島津斉彬	薩摩	下級武士から登用された家老➡調所広郷が推進。①負債の250年賦②黒砂糖の専売制③琉球密貿易で藩政改革成功。
毛利敬親	長州	➡村田清風を登用。負債の37年賦返済②越荷方(倉庫・貸金業)の設置③紙・蠟の専売
鍋島直正	肥前	日本最初の反射炉を製造し、日本初の鉄製大砲の铸造に成功。均田制(本百姓に対し、小作地をいったん収公して一部を地主に再給付し、残りを小作人に分ける)を実施。陶磁器(有田焼)の専売制をしく。
山内豊信	土佐	号容堂。吉田東洋・後藤象二郎らを登用し改革推進。
徳川斉昭	水戸	会沢安・藤田東湖たを登用。藩校弘道館を設立。藩内で反対にあい挫折。

弾圧された人物 2005、2009

時期	弾圧された人物	
寛政の改革	【 山東京伝 】(洒落本作家)	「 仕懸文庫 」などが風俗を乱すとして処罰される
	【 恋川春町 】(黄表紙作家)	著作が改革を風刺したとして処罰される
	【 林子平 】	『 海国兵談 』が人心を惑わすとして処罰される
大御所時代	【 渡辺崋山 】→	『 慎機論 』 モリソン号事件を機に幕政を批判したため 1839 年【 蛮社の獄 】で処罰される
	【 高野長英 】→	『 戊戌夢物語 』
天保の改革	【 柳亭種彦 】(合巻作家)	『 修紫田舎源氏 』が風俗を乱すとして処罰される
	【 為永春水 】(人情本作家)	『 春色梅児誉美 』などが風俗を乱すとして処罰される